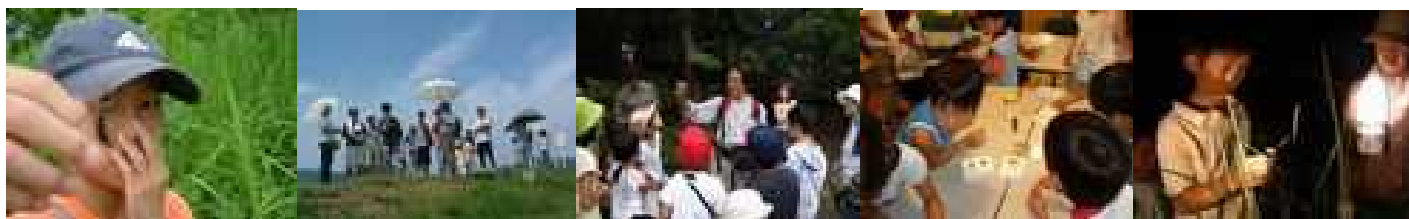


グラウンドワークとは・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

夏から秋。「鎮守の森」で、昆虫観察。 7月23日(土)～9月10日(土)

毎年好評の「鎮守の森」探検隊。全9回の日程のうち、5回が終了した。第1回～3回までは、昆虫の観察会。沢地川付近では、ハグロトンボなど数種類のトンボが飛んでいた。4回目は、昆虫標本の作り方と、害虫についての講義をそれぞれ選択して聞くことができた。5回目は、初めての試みの夜の観察会。参加した親子は60人を越えた。「先生から、とても易しく、詳しく昆虫のお話がきけるので、親子で楽しんで勉強しています。」「夜、虫の観察をすることが初めてだったので、たくさんのバツがいてびっくりした。コウロギの仲間も少し見つけて、うれしかった」と参加者の話が聞けた。なお、この活動は独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターの「こども夢基金」の助成を受けています。



せせらぎシニア元気工房 そばの種まき

三島市観音洞地区の畑地 2000㎡で、9月17日、そばづくり隊メンバー25名で耕作と種まきを行いました。炎天下の中、地元農家の指導を受けながら作業を行い、最初草だらけだった農地はみるみるうちに畑らしい姿

に。たくさんの汗をかきながら、畝づくり、種まきの作業を終え、農作業の厳しさや農業の重要性を知る機会にもなりました。今後、11月に草刈りを、12月に収穫とそばの試食会を行う予定です。



沢地グローバルガーデン

ガーデン作りを始めて早や12年。四季折々の花植え、草取りなどを、グローバル文化交流協会の会員はじめ、多くの人たちと一緒にしています。ほぼ毎月、静岡県立三島北高校の福祉部の男女部員と担当の新井隆雄先生も作業に参加しています。

この春、散歩道であるこの辺りを偶然通りかかったのが、日大国際関係学部のアメリカー人講師・グレッグさん。「このロゴマークは、何ですか。街の中でも、見掛けたことがあるのですが・・・」と興味を示し、それ以来時々作業に参加するようになりました。草を取り、土をいじりなが

らの新しいコミュニケーションは、とても自然体。夏の強い日差しから、秋の涼やかな風へと、季節の移り変わりもいち早く感じられるのもガーデンならではです。



アフリカのセネガルからの視察者

セネガルのタンバクンダ州農業水利省維持管理センター所長のアマドウ・サル氏が、9月12日(月)午前中、同行者3人とGW三島の実践地を視察。案内役はGW三島の小松幸子理事。また、日大国際関係学部金谷尚知教授も同行。

行政官として市民の活動支援にも携わっているサル氏は、セネガルで実施中の「安全な水とコミュニティ活動支援計画」の研修の一環として来日。



州内の1960もの市民団体が、それぞれよく活動しているが、GW三島のように各団体が連携をとったら、

もっといい活動につながりそうだと感想を述べた。また、せせらぎに湧水を汲みに来た住民に会い、その水の値段が無料と知って驚いていた。「足水場」では、富士山からの清冽な湧水の冷たさに、感動していた。

アジアはフィリピンからの視察者

太陽コンサルタンツ(株)海外事業部の山田朝男顧問が、フィリピンの国家灌漑庁でバゴ川灌漑システムの改修・維持管理強化事業を進めている事業責任者のマリオ・グリナオ氏と、現場責任者のサンティアゴ・エスラバン氏と共にGW三島の視察に訪れた9月26日(月)は、水辺で4回も三島の鳥・カワセミの歓迎を受けた。案内役はGW三島の小松幸子理事。

フィリピンからの2人は、三島の身近な清流に感激し、市民側の取り組みに大きな関心を寄せた。グリナオ氏は、実践地をビデオ撮影しながら、フィリピンの川も、いつの日か、このようにしたいものだと言った。



大学生がGW三島で環境改善を学ぶ

静岡大学と静岡県立大学の大学の学生 55 人が、7月2日、3日の2日間にわたり三島市を訪れた。

なかでも地域生態科学論を必須科目とする静岡大学農学部は年1回、渡辺豊博GW三島事務局長を講師に迎えGW活動とは何かを学んでいる。この日は理論の実践としてGW三島の活動拠点を視察し、絶滅の危機にある水中花を育てている「三島梅花藻の里」に出向いた。また、午後からはプランターの改修や花の植え替え作業などの実習活動も行った。

静岡大学農学部人間環境学科の小嶋睦雄教授は「街中の河川が汚れたとき、市民は川に背を向けた生活をしてきた。その市民を川へ振り向かせたGW三島の功績は大きい。特に渡辺事務局長の活動は大学で学んだ専門知識と科学的な根拠に裏づけされていた」と話した。



三島南高校ピオトープ「今」

静岡県立三島南高校のピオトープについて河上力也教諭（生物担当）に話を伺った。川上教諭は4年前同校に赴任。ピオトープの計画段階から今日までピオトープと関わってこられた。現状と問題点について次のように語られた。

建設当初はサイエンス部が中心であったが、現在は3年生の授業「生物探求」（選択）でピオトープを活用、管理をしている。授業は生物に関する実験・観察を目的にし、週2時間、19名で行われている。

- 1学期に2回 メダカなどの水生動物の観察
- 2学期に2回 トンボの観察・ピオトープの清掃（草取り・藻の除去）

メダカは年々生息数も増えトンボも見られるが、水の流れが悪く藻が繁茂してしまう。水量が少なくなっている（原因



不明)ことが最大の問題点である。道路建設も予定されているので水の枯渇が懸念される。

管理面では、予算や核になる人材の継承がうまく出来ないことがあげられる。また、ピオトープの場所が校舎の裏側で、人目に触れる機会が

少ないことなど考えるべき課題もある。

しかし、一般生徒にもピオトープの存在や理念が浸透している（理科担当教師5名が授業で取り上げている）ことや、外部への働きかけ（中学生の体験入学時や学校見学の案内時での説明）もしているので存在意義はある。

今後はGW三島との連携やさくら保育園との交流、地域住民への紹介などを考え、サイエンス部（現在部員14名）の活動を中心にピオトープを大事にしていきたい。

地域再生計画認定

三島市はこのたび内閣府より地域再生計画が認定され、またそれを推進するためのモデル事業の支援をグラウンドワーク三島が受けることになりました。

この事業はグラウンドワーク三島によるこれまでの市内各所での活動成果をベースに、地域の資源を活用したエコ・スタディー・ツアー（環境・まちづくり体験研修ツアー）の実施等を通じて、にぎわい再生に向けた戦略的なシナリオを地域協働で策定・実行しようというものです。

湧水の街に育って 中西 康徳さん

今回、三島でロケを行った『坊ちゃん』が半世紀ぶりに再上映されることになりました。「桜川を愛する会」の会長として活動を続けてこられた中西さんの旧宅もロケ現場として使われました。地域の川を大切にとの思いで長年活動を続けてこられた中西さんにお話を伺いました。



学生だった中西さんが帰省したおりに垣間見た撮影風景は、大変興味深いものでした。

何しろ四国の松山が舞台の映画を三島で撮るわけですからいろいろ無理があります。撮影にも苦労し、今向かいに建っているマンションの角あたりから大きく斜めに家の門を撮るなど、苦心していた様子や、茶の間でお茶を飲んで池辺良の姿や、赤シャツ役の森繁久弥が門から出たところで川に落ちるシーンなどを覚えて

います。舞台になった旧宅は、今は隣家が建っている所にあり現在の家の場所は庭になっていました。台所には桜川の水が引き込まれており、当時は窪町に店を持っていたので窪町水道の権利もあり、桜川の水、窪町水道、井戸と、水には恵まれた生活をしていました。- 余談ですが、顔を洗う様子を見るとお国柄が一目で分かりますね。水の豊富なところの人は手で水を何度もすくいゴシゴシと洗いますが、水の少ないところの人は両掌の水に顔を付け顔の方を動かすんですね -

映画「坊ちゃん」より
監督 丸山誠治
東京映画制作
東宝配給
出演：池辺良
岡田茉莉子 他



小さい頃は、桜川の水も豊富で川べりまで満々と水をたたえ流れも急でした。流れに逆らって泳ぐといつまでも泳いでいられました。どんだんの堰は深く、落ちると水圧で大人でも上がってこられませんでした。当時、川清掃は年に一度で5月5日が清掃日になっていました。桜川の水利権は中地区、中島地区にあり、6月の田植え前の水量が減った時期に水を落として行われていました。こんなときはウナギ捕獲大作戦です。ウナギのいそがしい岩の割れ目の周りに砂で池をつくりカーバドを入れます。水と化合してアセチレンが発生し苦しくなってきたところを御用というわけです。全部で30匹くらいは捕れたでしょうか？ウナギと言えば、緒明さんの池にはたくさんいて、中学生の頃に一度に80匹くらい捕まえたことがあります。学生時代、都会の仲間が家に泊まりに来ると、水泉園（白滝公園）の湧き間まで手ぬぐい片手に顔を洗いに行ったものです。

昔は、広小路から中央町沿いに鉄砲の弾のような形の給水栓が幾つもあり、誰でも好きに水を飲めました。また、本町タワービルの裏に水源地もありました。まさに三島は溢れるほどの水量の街でした。

これからは、豊かな水を育てくれる富士山、箱根、伊豆という自然に恵まれた地の利を活かした生活を楽しまたいです。

6月28日(火) みしまプラザホテルにて。みんなが元気になれる、「わくわくする環境コミュニケーション」として、「バイリンガル環境かるた」遊び、講演会、シンポジウム、交流会が行われました。

講演会の講師を務めたのは、同時通訳者、環境ジャーナリストの枝廣淳子さん。「朝2時起きて、なんでもできる!」の著者でもあります。講演「なりたい自分になるために~エコから学ぶ「自分マネジメント術」~では、明確なビジョンを持って前向きに行動していくという話に多くの方が引き込まれ、刺激を受けました。

シンポジウム「バイリンガル環境かるた」では(✉)を受送信。小池政臣三島市長、ロバート・イエリン氏、日大金谷ゼミ生の茅野豪さん、GIA事務局など、それぞれの立場から、かるた標語をもとに身近な環境について考えました。

20周年を支えてきたメンバー。国際交流あり、環境教育ありの幅広い活動は、これからも続けていきたい!



腰切不動尊例大祭大にぎわい

5月29日、GW三島と日本大学国際関係学部「国際協力研究会」および金谷ゼミによる腰切不動尊例大祭が行われ、地域の子供たちでにぎわった。約300年の歴史がある不動尊。後継者不足などで例大祭の実施が困難になっていたが、「国際協力研究会」および金谷ゼミによって平成11年に40年ぶりに復活した。今年も会場では子ども相撲が行われ、学生たちによって焼きそば、餅、クレープなどが提供された。



強い陽射しが残る9月3日(土)。毎月月初め行われているGW三島の実践地の1つ、鏡池の清掃作業。雑草取りや植木の整備にと黙々と作業を続けている仲間の中に、何時もの通り、岩田重理さんが居た。

岩田さんのGW三島との出会いは、平成4年(2001)に三島青年会議所に入会した時に所属した「豊かな水ビジョン委員会」の委員長が秋山峰治さん(現三島ゆうすい会事務局長)。

彼の下で湧水復活事業等に取り組んでいる内にGW三島の渡辺豊博さんが現れ、いつの間にかスタッフの一員になっていた。

それから現在まで、でしゃばらず控えめに、GW三島の土台の所で活動を支えてきた。GW三島や三島ゆうすい会の野外活動、休日はソフトボールの審判とアウトドアの活動の成果?で、黒々と日焼けした精悍な顔立ち、しかし、眼鏡の奥の眼は優しく、笑みを絶やさない。

岩田さんのモットーは「あせらず、プラス思考で、こつこつと」。作業をしていると、多くの方が話しかけてくる。「お役所の方ですか」「日当は?」と。予想もしない質問に戸惑うこともあるそうです。

「最近思うのですが、この活動は単なる奉仕活動ではなく、自分自身の生き甲斐となってきています。“右手にスコップ、左手に缶ビール”と。気楽な気持ちで参加できたので今日まで続けられたと思います」と語る。まさに継続は力なり。明るくエネルギッシュな岩田さん。これからも仲間と共にいい汗かいてくださいね。

その岩田さんの家族構成は、妻と男の子3人で、全員がみんな元気で留守がいいとの家庭。「高校3年の三男が、今秋開かれる岡山国体に走り高跳び静岡県代表で出場します。ぜひ応援してください」と伝言をいただいている。



国際交流基金
日英GW交流事業
国際交流基金の助成を受け、日英グラウンドワーク交流事業を実施いたします。

まず、10月9日から15日の予定で訪英視察団を派遣し、英国のまちづくりや人材育成事業を調査します。

11月には、英国グラウンドワークを招聘し、国際シンポジウム(11月23日)と研修プログラムを実施します。

平成17年度通常総会開催

5月29日、三島市本町Via701において通常総会と討論会を開いた。

「語ろう・考えよう・にぎわいの処方せん」と題した討論会では、英国グラウンドワークの最新情報 三島のブランド再発見 にぎわいのある街、歩いて楽しい街ってどんな街 水の都・三島の自然

と環境の未来の4つのテーマから三島の街づくりと活性化を考えた。

テーマ 水の都・三島の自然と環境の未来へのゲストに小池政臣三島市長を招き、緒明實理事長、渡辺豊博事務局長と意見を交わした。

「東レが大場川へ流している1日10万トンの水を市街地の河川に回してもらえないか。また三島市主催の環境市民大学の卒業生とGW三島がうまく連携する仕組みをつくりたい」など、事務局長からの提言に、「源兵衛川に流してもらっている通常毎時700トンの水を、5月から10月までの稲作の時期には1500トンにしてもらっている。しかし、まだ8万トンを越す水が大場川に捨てられているので、その有効利用をお願いしていきたい。環境市民大学卒業生に三島市が環境リーダーを依頼しているので、彼らが活動できる組織がほしい」との回答があった。



GW三島活動記録 2005年6月-2005年9月

新刊情報

月	日	項目	内容	実施場所	参加者
6	4	水と蛭と福祉まつり		楽寿園～源兵衛川	
6	5	環境コミュニティ・ビジネス	作業場屋根の解体と改築	悠遊工房ひろかわ	15名
6	5	環境コミュニティ・ビジネス	せせらぎシニア元気工房平成17年度活動説明会	悠遊工房ひろかわ	20名
6	11	鏡池	整備作業	鏡池	10名
6	11	境川・清住緑地	整備作業	境川・清住緑地	10名
6	12	三島梅花藻の里	整備作業	三島梅花藻の里	8名
6	12	環境再生医シボジウム	水辺のワークショップ、シンポジウム	実践地、Via701	100名
6	12	環境再生医シボジウム	ふるさときゃらばんミュージカル「天狗のかくれ里」	長泉町ベルフォーレ	
6	17	土木学会授賞式	「源兵衛川・暮らしの水辺」が最優秀賞を受賞	土木学会講堂	事務局長ほか
6	19	三島梅花藻の里	梅花藻の緊急整備作業	三島梅花藻の里	6名
6	23	スタッフ会議		Via701	スタッフ
7	2	鏡池	整備作業	鏡池	
7	2	現地実習	市内視察、現場実習(花の植え替え)	悠遊工房ひろかわ他	50名
7	3	現地実習	市内視察、現場実習(花の植え替えと設置)	三島梅花藻の里他、	20名
7	3	境川・清住緑地	整備作業	清住緑地	
7	14	スタッフ会議		Via701	スタッフ
7	23	三島・鎮守の森探検隊	川や畑、花壇の昆虫を観察しよう	沢地	24名
7	28	コアスタッフ会議		Via701	コアスタッフ
7	31	三島梅花藻の里臨時作業		三島梅花藻の里	
8	6	鏡池	整備作業(草取りや木の剪定)		
8	7	境川・清住緑地	整備作業(中央部湿地帯の草刈、ゴミ拾い)	境川・清住緑地	13名
8	7	三島・鎮守の森探検隊	松毛川周辺の生き物を観察しよう	長伏公園集合	28名
8	8	窪の湧水池	現地調査	窪の湧水池	10名
8	14	三島梅花藻の里	整備作業	三島梅花藻の里	
8	21	三島・鎮守の森探検隊	楽寿園の森を歩こう	楽寿園正門集合	28名
8	21	三島・鎮守の森探検隊	親と子のための昆虫教室	Via701	35名
8	21	せせらぎウォークぶらり～	源兵衛川側、三島梅花藻の里	三島市内	スタッフ
8	30	スタッフ会議		Via701	15名
9	3	鏡池	整備作業	鏡池	8名
9	3	三島梅花藻の里	整備作業	三島梅花藻の里	5名
9	4	境川・清住緑地	整備作業(草刈り)	境川・清住緑地	20名
9	10	三島・鎮守の森探検隊	夜に活動する昆虫の観察	沢地地区	80名
9	11	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	5名
9	11	沢地グロバルガーデン	整備作業	沢地グロバルガーデン	
9	11	源兵衛川を愛する会	整備作業	水の苑緑地かわせみ橋～源兵衛橋	10名
9	18	三島梅花藻の里	整備作業	三島梅花藻の里	5名
9	19	せせらぎシニア元気工房	そばの種まき	三島市観音洞	25名
9	28	三島測候所を保存する会	今後の方針、署名運動、募金の拡大について	Via701	
9	29	スタッフ会議		Via701	

(仮題)清流の街がよみがえった 地域力を結集 グラウンドワーク三島の挑戦
 渡辺豊博事務局長著による書籍が中央法規出版より十月末に発売予定(価格一千円)。
 GW三島のこれまでの歩みと今後の発展への思いをとりまとめたものです。ご一読いただくとともに、是非お知り合いの方に紹介ください。

渡辺豊博事務局長受賞

GW三島の渡辺豊博事務局長が農業土木に関する技術、学問の発展に大きく寄与する業績を発表して、農業土木学会関東支部の優秀賞に選ばれた。

受賞理由は、「GW三島が用水路、湧水地、井戸、学校ビオトープなど多岐にわたる活動が報告され、活動を通じた住民参加による地域づくりは、今後の農業農村整備の推進に大いに参考になる」としている。これは平成10年に次いで2度目の受賞である。

視察に訪れたみなさん H17.7-H17.9

月	日	団体名	人数	住所
7	2	静岡大学農学部人間環境科学科	50	静岡県
7	2	日本大学国際関係学部国際交流学科	20	静岡県
7	3	静岡大学教育学部	15	静岡県
7	3	静岡県立大学非営利マネジメント講座	5	静岡県
7	21	九州大学大学院	4	福岡県
7	24	山梨大学大学院	19	山梨県
7	31	GW正会員(埼玉県)	4	埼玉県
8	18	立教大学21世紀社会デザイン研究科	4	東京都
9	10	村岡くらしまちづくり会議	15	神奈川県
9	12	(株)アースアンドヒューマンコーポレーション	4	東京都
9	14	太陽コンサルタンツ(株)	4	東京都
9	26	千葉大学園芸学部	10	千葉県
9	26	太陽コンサルタンツ(株)	3	東京都

事務局新スタッフ紹介

手塚雅恵さん

去年の夏休み、四国の友人の家から一人東京の自宅まで、自転車で帰る途中箱根越の前日に一泊したのが三島でした。商店街の中に、大きな樹がたくさんあるのがとても印象的でした。

もともと環境問題に関心があり、川掃除や公園づくりなど、地道な活動をしてみたいと思っていました。

日本GW協会から三島を紹介され新しいプロジェクト(地域再生計画、エコ・スタディー・ツアー)に参加することになりましたが、市民の多くの方が自分たちの町を良くしようと、とても熱心なのはびっくりしました。

「ここ三島が、私のグラウンドワーク活動の第一歩となります」と、希望に胸をふくらませ明るい笑顔で語ってくれました。スノーボードと映画が大好きという活発な女性です。



グラウンドワーク三島 ボランティアニュース 28号編集室

大野多恵子 大島公好子 川崎徳子 岸野和子 城所祖帝 小松幸子 斎藤彩子 坂井良重 山崎多紀子 GW三島事務局(50音順)